

## 知床半島におけるウミネコの繁殖について

福田佳弘

蒼鷹丸, 〒580-0014 大阪府松原市岡5丁目2-25

### はじめに

ウミネコ *Larus crassirostris* の北海道沿岸での繁殖は太平洋側では大黒島・ユルリ島・モユルリ島, 日本海側では利尻島・天売島, そしてオホーツク海側では枝幸町目梨泊で記録されているのみである(綿貫ほか 1988). 中川(1988)でも知床半島での繁殖は記録されていない。しかし1997年と1998年の調査の結果, 2年続けてウミネコの繁殖を確認することができたので報告する。なお, この調査は斜里町委託「知床半島斜里町側における海鳥類の生態とその自然教育への活用に関する研究」の一環として行なったものである。

### 調査方法

調査は知床半島のウトロ港から知床岬までの斜里町側で行なった(図1)。調査地の海岸線は切り立った崖が多く, 容易に近づけない場所が多いことから, 1997年の調査はウトロ港から知床岬まで遊覧している知床観光汽船上から繁殖地を探し, 詳しい営巣数は船外機付ボートで営巣地に接近し, ボート上から, あるいは海岸に上陸して親鳥が抱卵中の巣をかぞえた。観光汽船上からの調査は6月2日に行ない, 6月12日に船外機付きボートで調査した。1998年は6月5日にウトロ港から知床岬まですべて船外機付きボートで調査を行なった。調査日には, ウミネコの抱卵期にあたり, 波の穏やかな調査がしやすい日を選んだ。

ウミネコの繁殖時期を把握するために, 上陸して巣の内部を上から観察することのできるフレベの滝の24巣を対象に調査を行なった。1998年6月上旬から7月下旬までの期間に天候などに左右される事もあったがおおよそ5日間隔で卵数・ヒナ数をかぞえた。

### 結果および考察

1997年にはフレベの滝下の斜面で94巣, 知床五湖の断崖下斜面で18巣の合計112巣を確認した(図2)。1998年にはフレベの滝下の斜面で280巣, 知床五湖の断崖下斜面(図2)で114巣の合計394巣を確認した。1997年に比較すると1998年は約3倍以上に増加していた。

フレベの滝での繁殖スケジュールの調査は卵がふ化する直前の6月上旬から行なった。卵数は24巣中3卵が2巣, 2卵が15巣, そして1卵が7巣で, 平均1.8卵であった。初ふ化日は, 調査区以外では5月31日であったが調査巣では6月4日だった。そして, 消失した卵を

---

2000年1月10日 受理

キーワード: ウミネコ, 個体数変動, 知床半島, 繁殖地

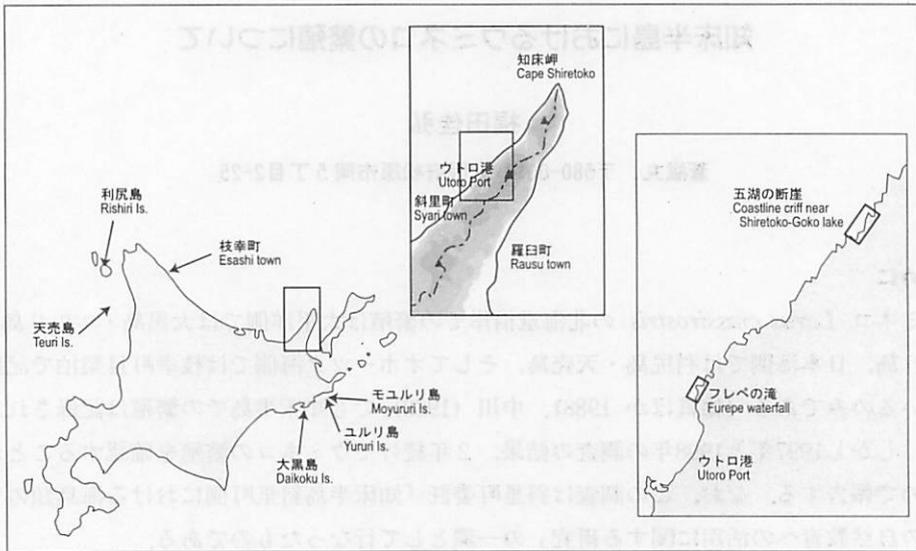


図1. ウミネコの繁殖地および調査地の位置。

Fig. 1. Breeding sites of Black-tailed Gulls in Hokkaido and the surveyed site.

除いて6月19日には全てがふ化した。ウミネコの平均抱卵期間は約26日(綿貫豊 私信)なので、産卵日は5月5日から5月24日であると推定される。巣立ちは7月14日にはじまり7月20日には全てが巣立った。

ウミネコの営巣数は2年で約3倍以上に増加した。このことから、ほかの繁殖地からの移入が起きている可能性が高いと考えられる。同様の個体数の大きな変動は天売島や利尻島でも見られている。天売島では1987年から1996年までの10年間で10分の1に減少したのに対し(福田 未発表)、天売島から約80km離れた利尻島では1997年は約200巣だったものが、翌年の1998年には1,000巣以上になり1999年には7,900±4,900巣に急増した(北海道宗谷支庁1999)。急増による漁業被害や住民からの苦情により駆除も行なわれている。

ウミネコの大きな個体数の増減の理由は明らかではないが、一方では減り、一方では増えるという現象が生じているため1か所だけの個体数の増減をもとに、駆除を行なうのではなく、全体のウミネコの繁殖地と個体数を把握し、ウミネコの安定した個体数を維持管理し保護して行くことが望ましいと考えられる。

## 謝 辞

調査にあたっては調査用ボートの手配をして下さった斜里町役場自然保護係の山中正実氏、ボートを貸していただいた米沢達三氏、調査のお手伝いをして下さった知床自然センターの松田光輝氏にこの場を借りてお礼を言いたい。

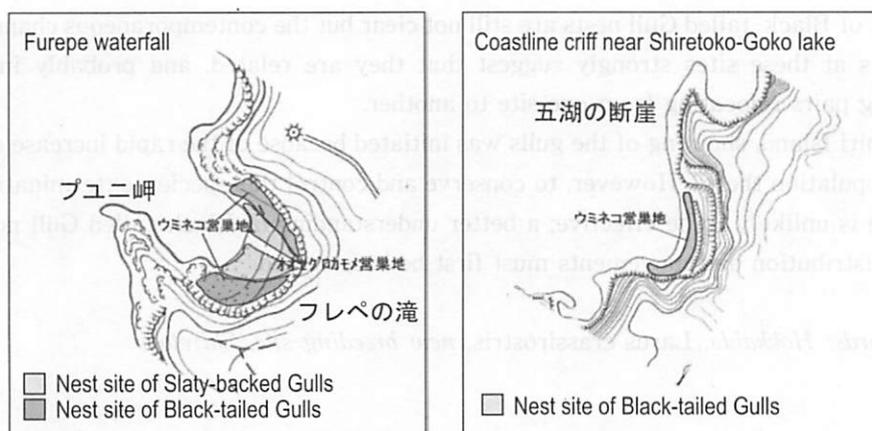


図2. フレペの滝および五湖の断崖のウミネコの営巣地。  
Fig. 2. Breeding sites of Black-tailed Gulls in Shiretoko.

#### 引用文献

- 中川元. 1988. 鳥類. 知床の動物. 大泰司紀之・中川元(編). 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
北海道宗谷支庁. 1999. 海鳥と共生する地域づくり事業報告書.  
綿貫豊・近藤憲久・中川元. 1988. 北海道における海鳥繁殖地の現状. 日鳥学誌 37: 17-32.

### Breeding of Black-tailed Gull *Larus crassirostris* on the Shiretoko Peninsula

Yoshihiro Fukuda

Aotaka-maru. 5-2-25 Oka, Matsubara, Osaka, Japan.

There are a number of sites along the coast of Hokkaido where the breeding of Black-tailed Gull *Larus crassirostris* has been recorded. During research in 1997 and 1998, a newly established breeding site of Black-tailed Gulls was found on the Shiretoko Peninsula, a new area for this species.

In 1997, 94 and 18 nests were confirmed at the Furepe waterfall and Shiretoko Goko lakes respectively. Then in 1998, 280 and 114 nests were confirmed at the same sites. As can be seen, the number of nests more than tripled from one year to the next. This rapid increase in the number of nests suggests that birds immigrated from another breeding site.

A similarly rapid increase of number was also observed on Rishiri Island, while a sudden decrease was observed on Teuri Island. The reasons for these large fluctuations in the

number of Black-tailed Gull nests are still not clear but the contemporaneous changes in numbers at these sites strongly suggest that they are related, and probably involve breeding pairs relocating from one site to another.

On Rishiri Island, shooting of the gulls was initiated because of the rapid increase of the local population there. However, to conserve and control this species, extermination at one site is unlikely to be effective; a better understanding of Black-tailed Gull populations, distribution and movements must first be ascertained.

*Key words:* Hokkaido, *Larus crassirostris*, new breeding site, Shiretoko